

12月2日(日)は文化ホールにおいて、人権週間「市民の集い」が開催されました。第一部では、せんなん子ども会議による活動報告がありました。第二部では、いじめや家庭環境の格差など、現代が抱える社会問題を子どもたちの世界を通して映し出した韓国映画『わたしたち』の上映。第三部では映画パブリシストの岸野令子さんと、せんなん子ども会議メンバーによる映画にまつわるシンポジウムが行われました。当日ご参加いただいた方に、感想をいただきました。

ま ず な

第16号

2019年5月

<発行>
泉南市人権啓発
推進協議会



市民の集い『わたしたち』上映会とせんなん子ども会議の活動報告・シンポジウムを聞かせて頂きました。

映画『わたしたち』では、顔立ちや表情、また街並みの懐かしさなど、違和感なく物語に入り込めました。

その分、映画の中の子どもたちの確執、思うようにならない家庭環境、先生との関係や学校の閉塞感など、まるで自分が体験したような息苦しさも感じました。

後ほど岸野さんの話で監督の体験を元に作られたと聞いてさらに納得しました。

いじめはどこにでもあ
る。ボスみたいな奴はどこ
にでもいる。取り澄ました
ように見える大人の世界で
もある。その中で自分ほど
うあるべきか。成長途中で



ある子どもたちにとっては自分の立ち位置を見失ったり他人との距離感をうまく取れなかったり、四苦八苦し悩み迷うことも多いでしょう。どう子どもたちに伝えていくべきか、考えさせられました。

映画の中で、「友達に叩かれたら叩き返さないとダメじゃない」と姉に言われた弟が、「叩いたら叩き返して、また叩き返して、そしたらいいじゃないか」と問い返

した言葉に希望をもらいました。また、シンポジウムに参加した高校生が、「いじめを止めることは難しいが防ぐことはできる。助けを待つのではなく、求めていくことも大事」と話していたことも、彼自身が今いる時代・場所から経験によって導き出された言葉として印象的でした。

子ども会議の報告では、公園チームの子どもたちから新しくできる公園について企業の担当者との意見交換をした話を聞きました。子どもが主体となって利用する施設は公園以外にもまだまだたくさんあるはず。大人のひとりよがりな思いではなく、子どもの視点に立った街づくりが必要だと思えました。そしてそこで意見を述べる子どもたちは本当に頼もしいと思います。

子ども会議のような取り組みが一時的に盛り上がるだけでなく、長いスパンで



<シンポジウムの様子>

取り組んでもらいたいと思います。子どもたちは5〜10年で成長し新しい世界へ出発していくなどで入れ替わりもあるだろうし、継続していくためには大人側にも多くの努力や工夫が求められるでしょう。しかし、子どもが幸せなまちは間違いなく大人や赤ちゃんや高齢者にとっても幸せなまちであるはずで、子どもの視点を市政に取り入れる取り組みを、市民を巻き込み持続可能な形で確立してもらいたいと思います。

(やまぐち さとみ)

人権週間 人権作品展・コンサート 市民の集い

12月2日(日)文化ホールにおいて開催された、人権週間「市民の集い」では、「いじめ」をテーマにした映画『わたしたち』の鑑賞後、シンポジウムが行われました。参加されたおとなの方や、せんなん子ども会議のメンバーから感想をいただきました。

いじめられてしんどい時、誰か相談できる友達や大人の方が周りにいるといいね。絶対みんな1人ではないよ。とにかく声を上げて。助けてくれる人が必ずいるから。(子ども)

玄関で子どもたちに丁寧に迎えられ、とても気持ちよかったです。子どもたちが、自分たちで問題やテーマを見つけて動いている姿に感動しました。(おとな)

誰かが一人ぼっちになっていたら、自分からその子に話しかけています。その子が学校に来たくないという気持ちにならないようにしています。(子ども)

いじめが起こっていることに大人がすぐに気付くことは難しいと思います。見たら止めることも大事。我慢は絶対にダメ。(子ども)

子どもたちが、しっかり意見を述べているのを見て、希望を感じました。(おとな)

いじめている人も、何か自分の中に不満があるんだと思います。だから、その人が持っている苦しみや不満をほぐしてあげることが必要です。(子ども)

パネルディスカッションでは、子どもの意見・言葉が聞けて良かったです。参加されている子どもたちの力強い言葉や笑顔で話をしている場面はよかったですね。(おとな)

平成30年度の「人権作品展」はイオンモールりんくう泉南で11月28日～12月2日に開催し、1,592名の方々にご来場いただきました。平成30年は、世界人権宣言が宣言されて70年の節目の

人権週間には、「市民の集い」の他、人権作品展やコンサートなど、さまざまな取組を行いました。

【人権作品展】

平成30年度の「人権作品展」はイオンモールりんくう泉南で11月28日～12月2日に開催し、1,592名の方々にご来場いただきました。平成30年は、世界人権宣言が宣言されて70年の節目の

年のため、会場では全条文を展示し、来場のみなさまに見ていただきました。また、子どもや孫と一緒に見に来てくれた方、買い物途中に立ち寄ってくれた方、旅行中の海外の方等々、作品展の会場は、感動の空気になりました。

〈参加者の声〉

◎3歳の孫にせがまれ見せて頂きました。とても、あたたかい作品ばかりで良い時間を過ごすことができました。

◎大人も子どもも力を合わせて楽しくうれしい作品展になっていますね！力を、心をいただきましたありがとうございます。



【コンサート】

また、12月1日(土)、人権作品展の会場でシルキーサウンドトリオによる、ふれあいコンサートが開催されました。

〈参加者の声〉

◎心にしみるような気持ちにさせてくれました。まさに、「ふれあい」コンサートですね！

◎どの曲も今まできいたことのある曲、年をとるにつれて、忘れていきそうな・・・今日は楽しい一時を過ごしました。思い出がたくさんできました。

◎来年、娘が中学生になりますが音楽部に入りたいというので親子で見に来ました。とても良かったです。



東小学校校区の集い

東校区の集い当日、東小学校PTA会長 大谷様からいただいた開会のあいさつに、非常に心打たれましたので「きずな新聞」に投稿していただくようお願いしましたところ、快くお引き受けいただきました。

9月14日、東小学校参観日同日、体育館にて人権研修が行われました。今年度は二胡演奏者のウェイ・リーリンさんをお招きし、演奏とお話を伺いました。

二胡とは中国の伝統的な擦弦楽器の一種で、とても優しい音色を奏でます。演奏曲は、日本でも有名な「涙そうそう」「見上げてごらん夜の星を」などでした。目を閉じて聴いていると心が洗われ、とても癒されます。異国の楽器で日本の楽曲を聴き、その歌は国境を越え優しく私達の心に入ってきます。

人種差別や、いじめ、パワハラなど、様々な問題を抱える現代社会。慌ただしく過ぎゆく時間が穏やかにゆっくり流れたいきまです。言葉だけでは届かない想いや願い、訴えのようなものまでが伝わってくるような音色に私はとても魅了されました。

最近では、人同士の会話が



減り、携帯電話のメールやラインなど便利な道具でのやりとりが増えていきます。文字は、伝え方、捉え方を間違えば誤解を生み、時に凶器になることもあります。

人と人が向き合つて会話をすることが少なくなりつつある昨今をとても寂しく思います。人を想いやる気持ち、気遣い、心配り、大切なものを私達はもちろんのこと、これからの社会を支えていく子ども達に伝えていくべきではないでしょうか。

言葉だけが先走り、感情が見えにくい会話が飛び交う現状。若年層の若者達の中には抱えきれず、そこからみ出そうとしてしまう人もいると思います。

大切なのはやはり言葉や表情、声のトーンや態度で伝える、読みとろうとすること。傍に寄り添いお互いを解ろうと努力するだけで、誤った解釈、伝わり方はなくなり、時として救えることも救われることもあるかもしれない。

人と人が関わることで心に余裕が生まれます。物事の本質や本当に大切なものが見えてくるのだと思います。

ウェイ・リーリンさんには、そんな人間関係、コミュニケーションの大切さを教えて貰えたように私は思います。

ありがとうございました。
(東小学校PTA会長 大谷 雅彦)



泉南市人権啓発推進協議会設立 40 周年 記念式典&人権啓発講演会

【日時】令和元年10月11日(金)午後～

第1部：式典

第2部：講演会

「林家染太の人権講演&落語

笑う門には福来たる！」

【場所】泉南市総合福祉センター

(あいぴあ泉南)1階 大会議室

【入場料】無料

【申込】事前申込不要

【手話通訳・一時保育】あり

※一時保育希望者は電話かFAX、

Eメールで人権推進課へ。



落語家 林家染太さん

菜七子に続け!

女性への

メッセージ

JRA (日本中央競馬会) の女性騎手・藤田菜七子さん(21)の活躍が注目を集めています。2月に行われたフェブラリーステークス・GIでは、最後の直線で猛烈な追い込み、見事な手綱さばきで5着入選、ニユースで大きく取り上げられたのは記憶に新しいところですよ。

この時、「国内GIレースで5着は立派だが、オリンピックや世界大会でもっと活躍した選手もいるのにな?」と感じた方も多いと思います。

実は藤田騎手とテニスの大坂なおみ選手、スピードスケートの高木美帆選手とは、『男子と同じ土俵で戦う』という点で根本的な違いがあります。陸上競技など他のスポーツの世界記録を比べてみると、表のようになります。

	陸上		競泳・自由形	スピードスケート	陸上	重量挙げ・スナッチ
	100m	マラソン	100m	1500m	走り高跳び	56k級(女子は58k級)
男子	9" 58	2時間01' 39"	44" 94	1' 40" 17	2m45cm	139kg
女子	10" 49	2時間15' 25"	50" 91	1' 49" 83	2m 9cm	112kg
男女比	1.09	1.11	1.13	1.10	1.17	1.24
区分	スピード系				パワー系	

(記録はいずれも 2019年3月末現在)



表からスポーツの3要素(スピード・パワー・テクニク)のうち、スピードでは約1割、パワーでは2割前後、女子選手にハンデがあることがわかります。

スピード競技で1割の差とは決勝進出者と1次予選敗退者くらいの差で、およそ対等に戦えるレベルではなく、男子と対戦すれば、大坂選手や高木選手は国内予選敗退レベルだとわかります。

テクニクは数値化しにくいのですが、フィギュアスケートのトリプルアクセルを成功させた女子選手が世界で9人しかいないことから、相当差があることは明らかです。

それでも、女子が男子と対等に戦えるのはテクニクが主となる競技しかありません。

競馬の話に戻ると、今から80年以上前、1936(昭和11)年に斎藤澄子さんという騎手がいました。彼女は坊主頭にし、男の騎乗服で胸に晒(さらし)をきつく巻き、「男」として騎手の夢を追い続け、ついに騎手免許を取得しました。しかしながら当時の監督官庁である農林省から「女騎手の出現は風紀問題を喚起する恐れがある」のでレースの出場はまか

りならぬ」と通告され一度も騎乗機会を与えられないとなく、失意のうちに27歳で病気で亡くなりました。

現在JRAにはミルコ・デムーロなど一流騎手が参戦し、騎手のレベルは世界のトップクラスです。

始まったばかりの『令和』、スポーツに限らずすべての分野で、人は国籍や年齢・性別に関係なく対等に戦えることを日本から世界に発信できる時代になるとを願ってやみません。

(西信達校区)

柿本 繁雄

お知らせ

市民交流センターでは、月曜日から金曜日の、9時から17時半まで、人権・生活・就労・進路に関する相談の受付を行っています。(人権協会担当)

また、毎月第3金曜日14時~16時には、市役所1階市民相談室にて、人権擁護委員による人権相談も行っていきます。

どなたでも気軽にお立ち寄りください。

※個人情報厳守されますので、安心してご相談ください。

つながり vol.6



このコーナーでは、日ごろ何気ない生活の中で、人権が感じられたり、ふっと暖かな気持ちになるエピソードを紹介しします。

「男女平等」が暮らしの中に生きていくように

泉南市は、2012年1月29日「泉南市男女平等参画都市宣言」をしました。目指すことは、男女が個人として尊重され性別に関わりなくいきいきと生活することを理念としております。宣言されて、六年余り経ちましたが、私たちの生活の中にこの宣言が活きているでしょう

か。そうでない面もあるようです。日常の会話の中に「女のくせに」とか「男の子なのに」といった言葉が寂しく耳に残ります。

生ごみ収集のある日、中学生の男の子が家庭の生ごみを所定の場所に運んでいる姿を見て「男の子にあんなことをさせて・・・」と、つぶやいた人がありました。これを聞いて違和感を覚えました。ごみを出すのが『女の子ども』だったらよかったですか。家族がお互いに家族の一員として、支えあって生活している温かいすがたの表れなのに。

このような現実がある反面、学校教育においては変化がありました。例えば、出席簿の構成が大きく変わりました。以前は、男子が先、女子が後に名前が載っていました。現在は男女混合で五十音順に構成されています。

社会に目を向けると、女

性が活躍している状況が随分増えたように思えます。大型のトラックを運転している。列車の運転をしている。交通事故など対応している等々。過日、所用で泉南警察署に行きました。署内に務めている女性が多いのに驚くと同時に喜びを感じました。

一方で、しきたり、伝統による課題も残されています。2018年4月舞鶴市で開催された大相撲巡業で起きた出来事です。テレビで実況放送されていたのでこの出来事を偶然に観ました。出来事とは次のような内容です。

挨拶していた多々見良三市長が、くも膜下出血で倒れたとき、救命措置のため女性看護師2人が土俵に駆け上がりました。この時、女性看護師に対し日本相撲協会が土俵を下りるようにアナウンスしました。

この出来事のあと、人命

よりも土俵の「女人禁制」という伝統を重視した対応に批判が集中しました。この出来事を海外メディアは「女性差別」だと報じました。相撲協会がこの出来事をどのように受け止めたのかは、今もわかりませんが……。

女性の活躍の場は少しずつ広がっていることは確かです。市民一人ひとりが宣言の目指すことを再認識し、お互いに具現化していくことに努めることは『花笑み・せんなん』にも通じていくように思います。

(砂川校区 清水 真治)



【10月までのおもな行事予定】

- 6/2 (日)
憲法週間&男女共同参画「市民の集い」
- 6/14 (金)
人権協フィールドワーク
- 8/18 (日)
非核平和の集い

募集中!

『きずな』新聞に関する感想、こんな記事を書いてほしいといった要望などをお寄せください。

みなさんのご意見お待ちしております。

※ご意見については、氏名・住所・連絡先を記入の上、市民交流センターに設置している『きずなポスト』に直接投函していただくか、郵送していただいてもかまいません。



校区の集い

校区人権協では、小学校区単位で地域に根ざした人権啓発活動を行っています。毎年、それぞれの校区で小学校やPTAと協力し、「校区の集い」を開催しています。平成30年度は、西信達校区において、human note（ヒューマンノート）をお迎えし、歌とお話の公演を行いました。

みんなトモダチ

作詞・作曲 寺尾仁志／歌 寺尾仁志 with human note

Lalala...Love

みんなみんなともだちさ

クラスで一番泣き虫も 一番かけっこ早い子も

みんな同じクラスの仲間

この街で一番がんばり屋も 一番おもしろい人も

みんな同じ街に住む人

またひとり（またひとり）

落ち込んで（泣いている） 誰かが君を想っている

窓の外へ目を向ければわかるから

キミはひとりじゃない

この地球-ほし- 世界中のみんなともだちさ

キミはさみしくない

この地球-ほし- 世界中のみんなのこころつなごうよ

Lalala...Love

みんなみんなともだちさ



西信達校区人権の集いは、10月19日、ヒューマンノートさんを迎えて開催されました。ヒューマンノートさんは、寺尾仁志さんがリーダーを務める総勢700名のシンガーグループです。寺尾仁志さんが作られた、泉南市の「あおぞら幼稚園」と「くすのき幼稚園」の園歌をご存知の方もいらっしゃると思います。

メンバーは、歌を通して人とのつながり「ウタのチカラ」によって日本中、世界中の人々を幸せにすることをミッションとして活動されています。今回来校してくださった17名のシンガーの歌声はとて美しく、小学校の体育館いっぱい響きました。そして、その歌詞はやさしく語りかけたり、元気が湧いてくるように

力付けてくれたりと、私は歌の持つ言葉のチカラに感動を覚えました。また、全校生徒と一緒に歌った「みんなトモダチ」では、6年生が友達とスクラムを組み、満面の笑みで合唱していた姿がとても印象的でした。この場にいるすべての子どもたちが、困難に出会った時、今日のこの歌を思い出し、夢をあきらめずに

頑張る気持ちを、この先ずっと持ち続けてほしいものです。

素敵な歌を、届けてくれたヒューマンノートさん、ありがとうございました。（西信達校区 大家清美）



編集後記

青空に手を伸ばすように広がる万葉の桜。人々はこれを待ち、これを愛でてどれほど多くの思いを寄せてきたことでしょうか。

今年の桜には格別なものがあります。昨秋の台風によって倒されたり、枝を折られたりして小振りになりながらも必死で生きて、美しい花を咲かせました。それはまさに厳しさを超えて咲き誇る梅を讃えたという万葉集の序文に通じるものがあります。それが出典となった元号『令和』がいよいよ始まります。それぞれの人においても、令和元年として記憶に残る年となることでしょうか。

そして、泉南市人権啓発推進協議会も今年で発足満40周年という佳節を迎えます。秋には記念の行事も予定しております。どうか、ご期待ください。

（企画委員会 編集委員）